

ホンダグループの生物多様性保全活動

活動の場所

栃木県芳賀郡茂木町
モビリティリゾートもてぎ



生き物の隠れ家になる伐採木で作る生命(いのち)の塔

活動目的

Hondaは「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現に向けて環境問題に取り組んでいます。その実現に向けたひとつとして、モビリティリゾートもてぎでは自然の保全と共に、人と自然、そして社会とのつながりに気づく「きっかけの場」を提供することを目的として活動しています。

活動内容

Hondaが所有するモビリティリゾートもてぎでは敷地の約640haの内の約7割を森林が占め、自然体験施設「ハローウッズ」を中心に自然の保全活動だけでなく、人と自然の共生に向けた活動を行っています。

■自然の保全

モビリティリゾートもてぎで現在確認されている生物種は約5,800種にのぼります。この中にはタガメやゲンゴロウなどの希少種も多数含まれおり、こうした自然や生物の保全活動に取り組んでいます。

開業前は管理が行き届いていない雑木林や田んぼであった土地を、木を切り森に光を取り込むことで環境改善を図ったり、棚田の水辺の再生を行い、絶滅が危惧されているハッチョウトンボの移植・保護を行ってきました。また、「環境改善は減らすことだけではなく、作ることも行う※」という考えのもと、伐採などにより林内密度を減らし光や風を取り込むだけでなく、生き物たちの棲みかをつくるなど、多様な環境づくりも行っています。（※ 森の環境改善は、伐採などにより林内密度を減らし光や風が入りやすいようにするだけでなく、生きものたちの棲みかをつくることも行う）

■人と自然の共生

自然豊かな里山に囲まれた環境を生かし、自然とのふれあいを通じた「遊びと学びの場」として、次世代の育成支援活動および地域環境保全活動を行っています。

2002年より実施している「ガキ大将の森キャンプ」では、小中学生に自然の中で30泊31日を過ごす機会を提供し、火起こしや昆虫学習、バイク走行などを通じて、生体リズムを整え、生き抜く力を身に付けていただくことを目指しています。



モビリティリゾートもてぎで確認されたハッチョウトンボ



ガキ大将の森キャンプでの昆虫採集の様子

PRしたいポイント

- ①1997年の開業当初から生物多様性の保全活動に取り組んできた歴史
- ②生物多様性の取り組みの一つとして求められている文化的サービス
(環境学習：森あそび体験、ものづくり体験、野外生活体験など)

活動効果、今後の展開 等

- 開業当初より保全活動を続けた結果、現在確認されている生物種数は約5,800種
- 希少種の保護活動、ハローウッズ以外の森林エリアの整備等